

編集後記

2020年8月25日がパラリンピック開会式の日となります。パラ・パワーリフティングは、8月27日から5日間、東京国際フォーラムで開催されます。

ちょうど一年前、ということで、パラ・パワーの普及啓発活動に忙しい日々を送っています。事務局に新しく入ってくれたスタッフのおかげでほぼ毎週2～3日の体験会やパラ・パワーの普及活動がこなせています。

肝心の選手の練習のためのベンチ台が不足するような有様で、選手にも迷惑をかけながら、一人でも多くの方々にパラ・パワーを知ってもらいたい、パラリンピックを見に来てほしい、と、訴えています。

筋肉ブームのおかげで、「ベンチプレス」は誰もが知っている競技となり、体験会をすると、健常者の力自慢の方々もパラ・パワーに挑戦してくださり、足を伸ばして行うベンチプレスを体験し、その難しさを経験していただいています。

キッズジャンボリーという催しでは、子供さんたちに、オリンピック・パラリンピックの会場となる東京国際フォーラムでウェイトリフティングと、パラパワーリフティングに挑戦していただきました。大人気で大勢の子供さんたちが、ウェイトリフティングやパラ・パワーに、プラスチック器具で格闘していただきました。嬉々として、そして、真剣に挑戦をする子供さん達に、人はみな、力を出す気持ちいいのは本能なのだなあ、という思いがしています。

こういう体験会を経て、一年後は会場に足を運んでくださる人が一人でも多いことを期待したいと思います。

こういう体験会では、選手も参加してくださり、パラリンピックを見に来てね、と、アピールしています。

先日は、外務省の事業でラオスでのパラ・パワーの普及活動に参加してきました。そこで、多くの日本人の方々が、ラオスや近隣の東南アジア諸国でパラスポーツの普及に尽力されていることを知り、何よりも驚きました。若いトレーナーさんが、現地のパラスポーツ選手を支えたり、アジアの障がい者活動を支援する会の皆さんが、親身になって、パラパワーの選手活動を支えたり、普及活動に勤しんでおられました。

ともすれば、日本の選手たちがどうすれば強くなるか、どうすればパラリンピックに行けるか、という視点でのみパラパワーに関わってきましたが、このようなボランティア活動がある事、全身全霊でその活動に打ち込んでおられること、そういう、活動を支える団体が日本にあること、など、心の底から感心しました。もっと、視野広く連盟活動をすべきなのかもしれない、と、思い知らされたラオス事業でした。(編集部、寿子)

